

# サガハイマツト通信

VOL.7

(平成26年7月号)

## 7月19日に一般公開



昨年5月の一般公開で加速器室を見学する参加者

### CONTENTS

- 開設から1年—十時忠秀理事長にインタビュー
- 粒子線がん治療の相談窓口
- 【お知らせ】一般公開においでください!
- 【スタッフ紹介】副技師長 佐藤弘史



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

### サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 **0942-50-8812**

(受付時間:平日の9時~12時、13時~17時)

メール **saga-himat@saga-himat.jp**

十時忠秀理事長  
この1年間で  
振り返って



# サガハイマツ運営順調

## 開設1年 目標上回る218人治療

サガハイマツは昨年5月の開設から1年がたちました。この1年間で十時忠秀理事長が振り返ります。

### 大学、医師会との医療連携

#### ▼サガハイマツの運営状況について。

昨年8月から治療を開始し、今年5月末時点までの約9ヵ月間で218人を治療しました。1年目の目標だった200人をはるかに上回り、順調な滑り出しといえます。それだけサガハイマツに期待してもらっていたのだと感じています。

患者数が多い要因の一つはやはり、“地の利”です。九州新幹線新鳥栖駅前ということで九州一円から訪れやすく、福岡空港や佐賀空港にも近いため、首都圏からの問い合わせもあります。医師や看護師など医療スタッフにとっても交通の利便性が高いのは魅力で、それが人材確保にもつながっています。立地環境としてこのような場所を提供していただいた鳥栖市に感謝しています。

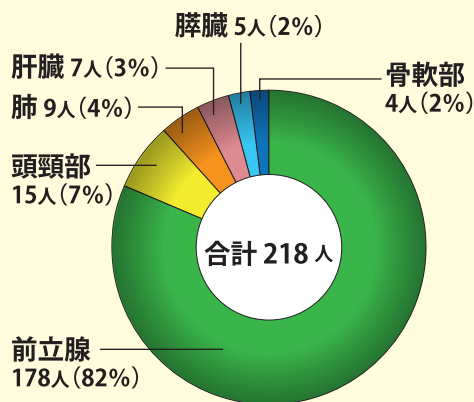
もう一つは、九州各県の大学、医師会との医療連携がうまくいっていることです。全てのがん患者さんが重粒子線治療を受けられるわけではありませんので、適応可能な患者さんを紹介してもらい、治療後は経過を見てもらう必要があります。

サガハイマツは入院施設がないため、他の医療機関との役割分担が明確で、とてもいい連携がとれています。さらに言えば、重粒子線治療が広く認知され、がん患者さんにサガハイマツを治療の選択肢として考えてもらうようになったことも大きいと思います。

#### ▼今後の課題。

患者数が予想より多く、治療開始までの期間が少し長くなってきたことが課題です。患者さんを長く待たせたくはありませんし、医療スタッフも少しでも早く治療したいと思っています。

#### サガハイマツにおける 部位別治療患者数 (2014年5月末現在)



そのため、現在、治療室は2室が稼働していますが、次世代型の装置を備えた3室目を早めに整備する予定です。もちろん、そのためには整備費用や医療スタッフの充実などが必要ですので、今後、関係機関の協力を得ながら、進めていきたいと考えています。

## 満足度高める治療に努力

▼がん治療も種類が増え、医療機関もさまざま。その中からサガハイマツを選んでもらうためには。

私たちは開設にあたり、「患者さんにやさしい施設にしよう」という目標を立てました。ハード面でエントランスを木目調にしたり、ステンドグラスの装飾を取り入れたりは、患者さんに少しでも安らいでもらい、元気になってもらえるようにとの思いからです。

ソフト面では患者さんへの接遇を重視しました。昔はがんを告知しない時がありましたが、今はきちんと説明し、親身になって相談を受ける時代です。医療スタッフが患者さんの支えとなれるよう、医療スタッフの教育にも力を入れています。

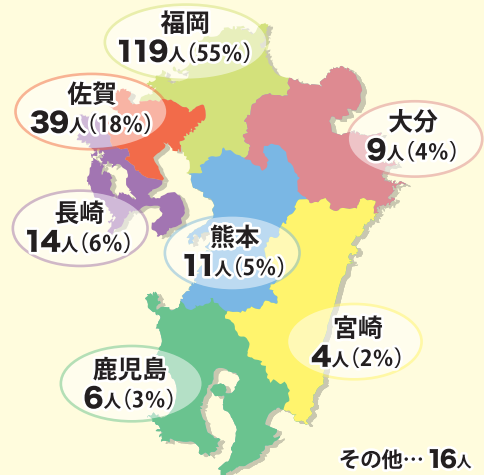
こうした努力に加え、治療の成果をきっちり出すことが大事です。私たちは開設前から佐賀、福岡などの大学や医療機関と連携し、部位別のがん治療検討班を設けました。それぞれの医師が診療科や大学の垣根を超え、患者さんのことを意識の真ん中に置いて最善の治療法を検討する組織です。患者さんの状態を踏まえ、大学、医療機関との連携でその命を救う。そうした実績を積み重ね、サガハイマツへの信頼を高めていきたいと考えています。

### ▼2年目に向けての抱負。

患者さんに満足してもらえる施設にするため、みんなで努力していきます。日本だけでなく、世界で最もいい治療成績を上げる施設にしたいです。

そして、放射線治療専門医の育成にも貢献したいと思っています。サガハイマツの治療実績が上がれば、重粒子線治療を志す学生も増えるはずですし、既に学生の研修も受け入れています。将来的には、アジアなど海外に重粒子線治療が普及するための協力もできればと考えています。

### サガハイマツにおける地域別治療患者数 (2014年5月末現在)



### ●粒子線がん治療の相談窓口

粒子線治療を希望する患者さんに対し、「粒子線がん治療外来」が佐賀、福岡県の4つの大学に開設されています。

患者さんへの情報提供のほか、適応判断、適応する患者さんの治療施設への紹介、治療後の経過観察などを行っています。

受診を希望される場合は事前に電話でお問い合わせください。

#### 九州大学病院

電話 092(642)5705  
診察日…火曜・木曜(午後・予約制)

#### 久留米大学病院

電話 0942(31)7611  
診察日…月曜・水曜(午後・予約制)

#### 佐賀大学医学部附属病院

電話 0952(34)3482  
診察日…月曜・金曜(午後・予約制)

#### 福岡大学病院

電話 092(801)1011(代表)  
診察日…火曜(午前・予約制)

## 7月19日に加速器室などを一般公開

一般公開に  
おいでください!

7月19日(土)午前10時から午後3時まで、サガハイマツを一般に公開します。一般公開は昨年5月に続いて2回目。治療室や直径20mのシンクロトンがある加速器室など普段見られない設備を見学できます。

昨年5月の一般公開には約1500人が訪れ、重粒子線がん治療に対する関心の高さをうかがわせました。見学コースは玄関ロビー、診察室、治療ホール・治療室、加速器室などで、各ポイントで重粒子線がん治療についての説明があります。

当日はサガハイマツの正面玄関で先着順に受け付けます。事前申し込みは不要ですが、当日の受け付けの際、住所、氏名などの記載が必要です。なお、敷地内に車の乗り入れはできないため、公共交通機関もしくは新鳥栖駅周辺の有料駐車場をご利用ください。

※診療や装置の状況、その他やむを得ない理由により、一般公開の一部又は全てを予告なく中止する場合がございます。



治療室では照射方法について説明

日時 7月19日(土)10:00~  
※最終受付は14:30  
受付場所 サガハイマツ正面玄関  
問い合わせ 佐賀国際重粒子線がん治療財団  
TEL 0942(81)1897

### スタッフ紹介

副技師長 佐藤 弘史

【略歴】1968年、大分県生まれ。大分医科大(現大分大)附属病院勤務を経て、93年に放医研に移り、重粒子線治療施設の立ちあげ段階から関わる。2011年5月から佐賀国際重粒子線がん治療財団に勤務。診療放射線技師、修士(学術)。



### 今後も「心と体にやさしい治療」提供したい

放射線医学総合研究所において、重粒子線治療の臨床試行の段階から現場を担当していました。そこでの経験を活用して、このサガハイマツで初年度から円滑に治療をおこなうことができるように建屋建設段階から準備を進めてきました。目標の受け入れ治療患者数も早々に達成することができましたが、今後はさらに多くの患者さまに「心と体にやさしいがん治療」である重粒子線治療を提供していけるよう、努力していきたいと思います。

### ●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツへのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、当法人へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当法人までお問い合わせください。

### サガハイマツ通信 VOL.7

(2014年6月発行)

【お問い合わせ】

発行 ■公益財団法人  
佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)落合  
住所 ■〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町415番地  
TEL ■0942(81)1897 FAX ■0942(81)1905  
HP ■<http://www.saga-himat.jp/>